



東中だより

夢を追え、自らを高めよ
—学べ・磨け・輝け—

5月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和8年4月28日 発行

創立 80 周年

校長 たかく まさゆき 高久 正行

始業式・入学式から約3週間が経過し、すっかり初夏を感じられる日が続くようになりました。先日、気象庁が1日の最高気温が40℃以上に達する日を「酷暑日（こくしょび）」と呼ぶとの発表がありました。4月でも25℃を越える「夏日」もありましたが、6・7月は気温の高い日が多くなるとの予報もあり、早めに暑さに体を慣らしながら、体調管理をしっかりと整えて夏を乗り切っていけるよう、学校でも引き続き暑さ対策等に取り組んでまいります。学校では、「学年・学級開き」や「係・委員会決め」を終え、授業も本格的に始まりました。生徒の元気な挨拶、教室や校庭・体育館から聞こえてくる声を聞くと、活気のある東中であることが改めて感じられます。



明日から大型連休に入ります。5月1日の「さいたま市民の日」は、さいたま市誕生20周年を契機に令和3年（2021年）に制定されましたが、すっかり定着した感があります。そして、5月2日は本校の「開校記念日」であり、今年が80年の節目となります。校長室内にある「創立50周年記念誌」に掲載されている当時の学校長の言葉を抜粋したものを以下に紹介します。

本校は、昭和22年 浦和市立尾間木中学校として尾間木小学校の一部を仮校舎として5月2日に実質的に開校し、以来この日を開校記念日と決めました。

昭和26年4月に2階建ての新校舎が現プラザ・イーストの地に落成しました。昭和31年4月に東浦和中学校と改名いたしました。昭和49年頃から生徒増にとともにプレハブ教室での授業が行われるようになり、昭和52年に現在の地に新校舎が落成し移転いたしました。

開校当初も現在の地に移転してからも緑に囲まれた教育環境が整えられるまでには地元地域の方々のご尽力があったとの記述もあり、長年に渡り、地域に見守れながら成長してきた学校であることが伺えます。令和に入り、変化が激しい時代と言われる時代になりましたが、地域に愛される学校、そして地域に貢献できる学校を目指し、今後も教育活動に邁進まいります。5月21日には、体育祭が開催されます。今までの伝統を受け継ぎながらも、新しい取組や発想を取り入れた80回目の体育祭、加えて生徒の自主性や団結力に満ちた体育祭を皆様に披露できるようにしたいと思っています。



～コラム～「母に感謝する日！」

母に感謝する日と言えば、「母の日」が浮かぶ人が多いかと思います。インターネットで調べてみると、「母の日の由来は、20世紀初頭にアメリカのアンナ・ジャービスが亡き母を追悼し、好きだった白いカーネーションを贈ったことが始まりです。この活動が広まり1914年に5月第2日曜日が正式な祝日となり、日本へは大正時代に伝わり、1947年から同様に5月第2日曜日に定着しました。」とあり、母の日に感謝の気持ちを伝える風習は世界各地にあるそうです。実は、5月5日の「子どもの日」ですが、国民の祝日に関する法律では「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」と明記されています。つまり、こどもの日は子供をお祝いするだけでなく、家族全体で母に感謝を伝える日でもあります。これは、制定当時、出産は命がけの大事業であり、子供の成長を祝うと同時に、産んでくれた母親の労をねぎらう意味が込められましたことによるそうです。